



草加工場における“聖域なき省エネ改革”の取り組みで 省エネ大賞「経済産業大臣賞」を受賞

理研ビタミン株式会社（本社：東京都新宿区、社長：山木一彦）は、同社草加工場（埼玉県草加市）における品質の維持と省エネを両立させる取り組みにより、2020年12月21日に発表された2020年度省エネ大賞（主催：一般社団法人省エネルギーセンター）の省エネ事例部門において、最高賞にあたる「経済産業大臣賞」を受賞しました。

なお、今回の受賞については、2021年1月27日に東京ビッグサイトにおいて表彰式が執り行われる予定です。



【受賞テーマ】

「食品工場における品質と省エネの両立に向けた聖域なき省エネ改革」

2020年度 省エネ大賞 省エネ事例部門 経済産業大臣賞
(CGO・企業等分野)

【受賞概要】

- 食品製造業における工場内環境の維持や洗浄殺菌工程といった、品質に直結するエネルギーの省エネを、社内委員会活動の改革により達成
- 品質と省エネを両立させる施策を行うための活動サイクルを確立
- 原油換算エネルギー原単位で2014年度116kL/千tから2019年度86kL/千tと25%以上の削減を達成
- 個人の力量に依存するのではなく、活動がシステムティックに推進されており持続性面で優れている
- 省エネが進みにくい食品業界はもとより、他業界にも広く展開できる

食品製造においては製品の品質が最重要視されるため、品質に影響を与える工程は省エネ活動の優先順位が低くなり、その結果“聖域”化する傾向がありました。

当社草加工場では継続的に省エネを進めるために、この聖域にメスを入れて品質の維持と省エネの両立を図ることが必要不可欠である、と考えました。これを行うには従来の組織では難しかったことから、組織改革をベースに省エネ活動に取り組みました。

この取り組みが評価され、理研ビタミングループとして初めての受賞につながりました。

理研ビタミンは今後も社会や自然との調和をはかりながら事業活動を行い、環境負荷低減に向けた取り組みを進めます。

<省エネ大賞について>

「省エネ大賞」では、事業者や事業場などにおいて実施した他者の模範となる優れた省エネの取り組みや、省エネルギー性に優れた製品並びにビジネスモデルを表彰しています。

●食品工場における“聖域”とは？

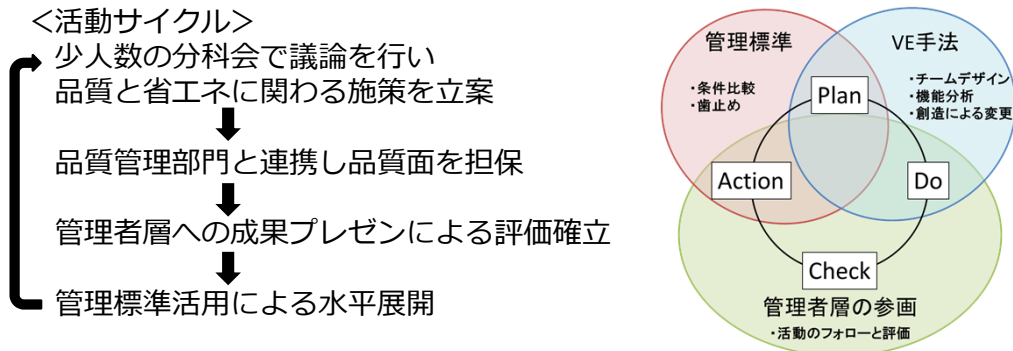
食品製造においては製品の品質が最重要視されるため、品質に影響を与える工程では品質低下のリスクへの懸念から条件変更に対し消極的になる傾向がありました。こうして手付かずのままにされた聖域は、工場全体の省エネ化が進むほど大きな存在となります。

当社草加工場では、このような聖域の根底には省エネ知識の不足からくる「条件は変えられない」という固定観念があると考え、省エネ知識に関する教育の強化を通じてこれを打破しました。



●活動サイクルの確立

品質と省エネを両立させる活動を継続的に実施するため、製造部門だけでなく品質管理部門や管理者層も巻き込んでPDCAサイクルを回す仕組みを確立しました。



●理研ビタミン株式会社 草加工場（埼玉県草加市）

当社の食品部門の主力工場で、1968年（昭和43年）に操業を開始しました。現在はノンオイルドレッシングや和風だし、スープなどの家庭用・業務用商品を生産しています。



お問い合わせ先
理研ビタミン株式会社 広報・IR室 井上・清水
TEL:03-5362-1315